

令和 3 年度の公益事業の紹介

公 1 緑化啓発促進事業

公 2 緑の募金事業

公 3 県民の森管理運営事業



緑の募金 PR キャラクター
どんぐり君



緑の募金 PR キャラクター
どんぐりちゃん

公益社団法人岩手県緑化推進委員会

【公 緑化啓発促進事業】

1 第52回岩手県緑の少年団大会（R3.7.30（金） 八幡平市「岩手県県民の森」）



開会式



歓迎の演奏（八幡平市立寄木小学校鼓笛隊）



植樹会



木製プランターカバー製作

23年植樹祭へ機運醸成

八幡平市で県緑の少年団大会

第52回緑の少年団大会は30日、八幡平市松尾東木の県民の森で開かれた。県内外の団員が豊かな自然を育む活動に携わり、2023年に天皇・皇后両陛下が来臨されて陸前高田市で開かれる全国植樹祭に向け機運を盛り上げた。

本県と秋田、福島、山形、宮城の4県から約200人が参加。夏空の下、17班に分かれて1974年全国植樹祭が開かれた県民の森内の敷地に、ミズナラやクヌギの苗木を1人1本植えた。丸木の輪切りの板で周りを囲み、自分の名前や天気を「書き込んだ」。

本工作にも取り組み、

3県の児童生徒交流 苗木植え、木工挑戦も

板に金づちでくぎを打ち付け、全国植樹祭の会場周辺の花を飾るプランターを納める箱を約50個作製した。同植樹祭に向けて新調した緑のスクリーンとテフリングが全団員に贈られた。

八幡平・松尾自然森林愛護少年団の岩瀬七海さん（松尾中1年）は「自然にたくさん触れることができ、楽しかった」と喜び、陸前高田・米崎緑の少年団の金野真希君（米崎小4年）は「本番は多くの人に参加し、植を楽しくしてほしい」と期待した。

県緑の少年団連盟が主催の同大会は例年、キャンプを交えて1日間開くが、新型コロナウイルス感染症の予防策として1日の活動に縮小した。

ミズナラの苗木を丁寧に植える松尾自然森林愛護少年団のメンバー

岩手日報（R3.7.31 付記事）

2 ふるさとの巨樹・名木観察会

・紫波矢巾地区 R3.6.19 (土)



勝源院の逆ガシワ（紫波町）

(公社) 岩手県緑化推進会は、平成8年に第1回を
開催し、県内各地の巨樹・
名木観察会。は、19日午前
9時半から午後3時、紫波・
矢巾地区で行われた。
緑の募金を活用した観察

紫波・矢巾で巨樹・名木の観察会
緑化推進
委員会
名木から地域を知る

ることを目的に、一般公募
で参加者を募っている。
今回の観察会では、参加
者 関係者約25人が大型パ
スで紫波・矢巾地区を巡っ
た。訪ねたのは、①赤湯神
社のケヤキ(推定樹齢30
0年以上)と同境内のスギ
(同1000年)、②八坂神
社のナラカシワ(樹齢不明、
37回目)、地域の貴重な樹木
③御明神のカツラ(推定樹
齢300年以上)、④勝源院
の逆ガシワ(700年)、⑤
育った環境や歴史、さらに
はその木がある神社、地域
の歴史など幅広い話題で参
加者を引き付けた。最後に
訪ねた、矢巾町指定天然記
念物のトチノキがある村松
家は歌人「西塔幸子」の生
地で、橋本講師は「幸子は
大木の下で生を受け、江
の八坂神社の楓の木の太木
の下で終焉を迎えた」とレ
ジメを締めくくっていた。

岩手林業新報 (R3.6.22 付記事)

・遠野地区 R3.10.23 (土)



早池峰神社のサワラ、夫婦イチイ（遠野市）

2021年10月28日放送

ふるさとの巨樹・名木観察会

地域の大きな樹木や名木を巡るふるさとの巨樹・
名木観察会が先週土曜日(23日)遠野市内で開
催されました。この観察会は、地域の貴重な樹木
を観察し、その地域の自然や歴史、文化について
改めて知ってもらうと岩手県緑化推進委員会が
開催しています。この日は、遠野の名木を観察し
ようと県内各地から14人が集まり、講師には森
林や樹木の研究をしていた岩手大学の橋本良二名
誉教授が招かれました。観察会では、黒や市の指
定天然記念物、夫婦イチイやサワラ、推定樹齢1
500年となるスズギなどを見て回りました。岩
手県緑化推進委員会によりまると、参加者からは名木の歴史を再確認できた、楽しく観察することができたなどの声
が聞かれたということです。

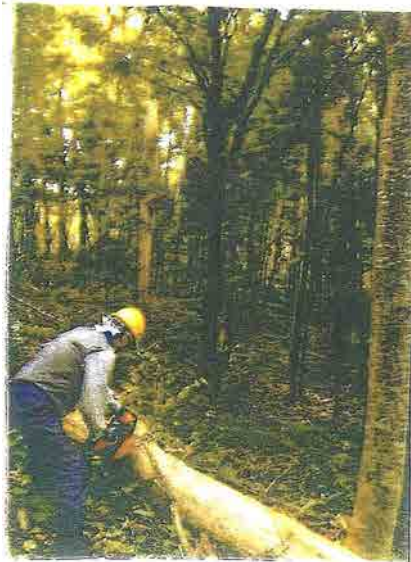
遠野テレビホームページより (R3.10.28 放送)

3 環境緑化普及啓発公募事業（助成）

- ・遠野市緑化祭「里山フェスタ 2021」（遠野市緑化祭実行委員会 R3.6.12（土））



- ・城内山健康の森事業（矢巾里山会 R3.9.11～9.20）



4 市町村支部等環境緑化普及啓発事業

- ・一関地方育樹祭（一関支部）

きれいな海へ緑守る決意 児童らが育樹祭

一関地方育樹祭（一関地方農林業振興協議会など主催）は16日、気仙沼市唐桑町の漁民らが広葉樹を植え続けている「森は海の恋人植樹祭」会場の一関市室根町の矢越山ひこばえの森で行われた。

地元児童と関係者約40人が参加。雨の降る中、室根山自然愛護少年団と室根西自然愛護少年団の代表がヤマザクラの苗木2本を記念植樹した。

「森は海の恋人」を地元から支え、漁民と一緒に植樹している室根町第12区自治会の



ヤマザクラを植える地元児童

三浦幹夫会長(75)が30年以上続くこの取り組みについて講話した。赤潮が大量発生した唐桑の海を以前の姿に戻そうとカキ養殖業の畠山重篤さんが1989年に室根山で始め、数年後に自治会側が持ち掛けて、海に注ぐ大川の源流である矢越山に会場を移した経緯を紹介した。

小松雅治君(室根東小6年)は「森が豊かなら、海はよくなる。緑を大切にしようと思った」と森林への意識を新たにした。

岩手日報（R3.10.18 付記事）

【公 2 緑の募金事業】

1 令和 3 年度いわての森林の感謝祭 (R3.10.2 (土) 釜石市)



豊かな森林 継承誓い植樹 鶴住居スタジアムで感謝祭

釜石 いわての森林の感謝祭(実行委主催)は2日、釜石市の釜石鶴住居復興スタジアムで開かれ、関係者が豊かな自然と資源の継承へ植樹した。

新型コロナウイルス禍を踏まえて規模を縮小し、約30人が参加。今春、釜石地方森林組合に就職した長洞奈央さん(18)、堀合樹音さん(18)、二本松蓮さん(18)が「先人が築き上げた豊かな自然環境をより良いものとし、次の世代へと確実につなげる」と誓った。

野田武則市長らは市の木であるタブノキ3本を植樹。地元関係者が事前に作業したものを含め、スタジアム敷地内にはモミジやツツジなど11種約270本が植えられた。

感謝祭は県や各市町村、県緑化推進委が主催し、13回目。森林の恵みに感謝する行事として2007年度に始まり、各市町村を巡って開いている。20年秋の分がコロナの影響で同日に延期となった。

タブノキを植樹する野田武則市長(右)ら

岩手日報 (R3.10.4 付記事)

2 緑化運動コンクール

- ・第 73 回全国植樹祭ポスター原画岩手県コンクール

《 最 優 秀 賞 》



北上市立黒沢尻西小学校 3 年 高橋 蘭々

・令和４年用国土緑化・育樹運動ポスター原画 岩手県コンクール

《 優 秀 賞 》 ３作品

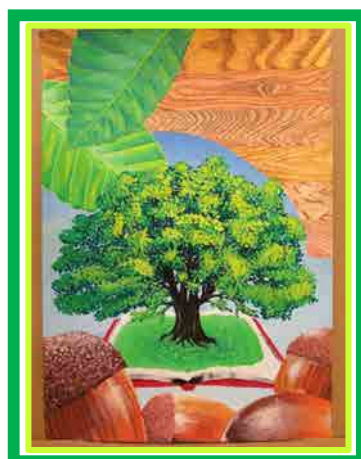
【小学校の部】

【中学校の部】

【高等学校の部】



盛岡市立城北小学校 ２年
細田 咲良



盛岡市立大宮中学校 ３年
藤原 佳乃



岩手県立花巻北高等学校 １年
藤田 若葉

《入選》11 作品	盛岡市立城北小学校 １年	元村 旭陽
	盛岡市立城北小学校 ３年	元村 彩葉
	葛巻町立江刈小学校 ５年	木戸場 乃愛
	北上市立江釣子小学校 ４年	後藤 風花
	北上市立江釣子小学校 ６年	小原 紗都
	北上市立江釣子中学校 １年	米澤 芽生
	奥州市立江刺第一中学校 ３年	大鹿 美雪
	岩手県立一関第一高等学校附属中学校 ２年	村上 朔
	岩手県立杜陵高等学校 ２年	津軽石 尚
	岩手県立福岡高等学校 ２年	浪岡 道祐
	岩手県立盛岡ひがし支援学校 ３年	佐々木 夢那
	《佳作》42 作品	

岩手県コンクール入選作品 14 作品を国土緑化推進機構主催の全国コンクールに推薦したところ、2 作品が入選しました。

入選 小学校の部 細田 咲良（盛岡市立城北小学校 ２年）
中学校の部 藤原 佳乃（盛岡市立大宮中学校 ３年）

・標語コンクール 岩手県推薦作品（10 作品）

（五十音順）

広げよう 未来へ続く 緑の大地	盛岡市立下小路中学校 １年	阿部 雄斗
小さな芽 託した夢は 無限大	盛岡市立下小路中学校 １年	石井 芽彩
木を植える 今と未来と 君のため	盛岡市立下橋中学校 ３年	因幡 暖
つなげよう 豊かな緑 いつまでも	一関市立室根東小学校 ６年	菅原 美優
育てよう 未来へつながる 希望の緑	県立宮古商工高等学校 ３年	関 玲翔
未来へと ゆたかな緑 つなぐ夢	一関市立室根東小学校 ４年	只野 真唯
つなげよう 緑の大地と 笑顔の未来	盛岡市立下小路中学校 １年	福田 汐菜
まもろうよ ぼくらのみらいと みどりのちきゅう	釜石市立小佐野小学校 １年	三浦 晴二朗
未来へと つなぐ広げる 緑の森	盛岡市立下小路中学校 １年	山田 佑晟
小さな芽 そこから始まる 輝く未来	盛岡市立下小路中学校 １年	吉野 あかり

3 緑化功労者の表彰（岩手町 山中義一氏）

- ・ 東北・北海道地区緑化推進協議会会長賞
- ・ 国土緑化推進機構理事長感謝状



4 森の学校・森の先生事業

- ・ 河南公民館講座「少年自然教室」（河南公民館 R3.1.30（土） 岩手県県民の森）



- ・ 森林学習会（宮守森林愛護少年団 R3.10.26（火） 遠野市立宮守小学校教室）



5 市町村支部等緑化推進事業

- ・ 巨樹・名木保存事業（矢巾支部 R3.12 月中旬）



- ・ 植樹祭環境整備事業（木製プランターカバー製作）



県民ボランティアによる木製プランターカバーの製作（R3.10.16～17 八幡平紅葉まつり）



緑の少年団による木製プランターカバーの製作（R3.7.30 岩手県緑の少年団大会）

・少年団装備品等整備事業（ネッカチーフ、チーフリング）



岩手県緑の少年団連盟より贈呈
（R3.7.30 岩手県緑の少年団大会にて）

・少年団種子採種事業（R3.6.23（水）松尾自然森林愛護少年団 岩手県県民の森）



74年全国植樹祭で昭和天皇、皇后が植樹

オオヤマザクラの実採種

八幡平市・県民の森で県緑化推進委

県緑化推進委員は23日、1974年に全国樹木会館で開かれた八幡平市松尾自然森林愛護少年団の森で、昭和天皇と皇后が植樹したオオヤマザクラの実を採種した。本県2度目の植樹地となる陸前高田市で天皇陛下がお手まき予定。関係者は昭和の成長を予感し、森林保全の思いを託す。

松尾中の生徒をつくる松尾自然森林愛護少年団の1年生24人が参加。5班に分かれ、約80の敷地に植えられたオオヤマザクラから熟した実を採種した。実をさきに入れた水中でもみ、針さしで種の取り出し、団員を代表して佐々木知洋さんがゼビュ（左）と、県民の森で採種した実を手に、鈴木清人総括課長に手渡した。団員の田村悠太さんは「思ったよりも実が少なく、思っていた。多くの人に種をまいてもらい、きれいな花を咲かせてほしい」と期待を込めた。74年の全国植樹祭は、全国から約1万6千人が参加。南郷アカマツやシラカバなどの記念植樹を行った。昭和天皇と皇后がお手まきされたオオヤマザクラの里木は現在、ほとんどに育ち、春には美しい花を咲かせている。

今回採種した種子は、県が2年間冷蔵保存し、23年に陸前高田市の高田松尾自然森林愛護少年団で育つ全国樹木会館の森で、天皇陛下がお手まきをする。関係者は、この活動が、次代に受け継がれてほしい」と願う。

オオヤマザクラの種子を鈴木清人総括課長（右）に手渡す松尾自然森林愛護少年団の佐々木知洋さん

岩手日報（R3.6.24 付記事）

6 ユリノキ積木等贈呈事業



野田支部 (R3.11.12 日向保育所)



久慈支部 (R3.12.6 久喜保育園)



普代支部 (R3.12.14 つちのこ保育園)



岩泉支部 (R3.12.14 おもとこども園)



岩手日報 (R3.12.16 付記事)

【公 3 県民の森管理運営事業】



2月 七滝氷瀑ツアー



5月 八幡平さくらまつり



6月 七滝魚止めの滝 観察会



9月 きのこと教室



10月 八幡平紅葉まつり



10月 紅葉の七滝魚止めの滝 観察会



10月 秋の野鳥観察会



12月 門松教室

- ・令和4年度の行事もたくさん予定しております。
詳しくは、岩手県県民の森ホームページ (<http://www.kenminnomori.com/>) をご覧ください。